

タイにおける現地情報

2021年9月14日
HS-TECH ENGINEERING
橋本真也
Sunisa Thammaprot

【コロナ第四波の襲来(その2)】

コロナとの共存へ(9月1日から各種規制緩和がスタート)

小エビ、えのき、野菜のナンプラー炒め(上・左)
豚肉・筍のココナツツ煮(上・右)、鳥肉・筍のお汁(下)

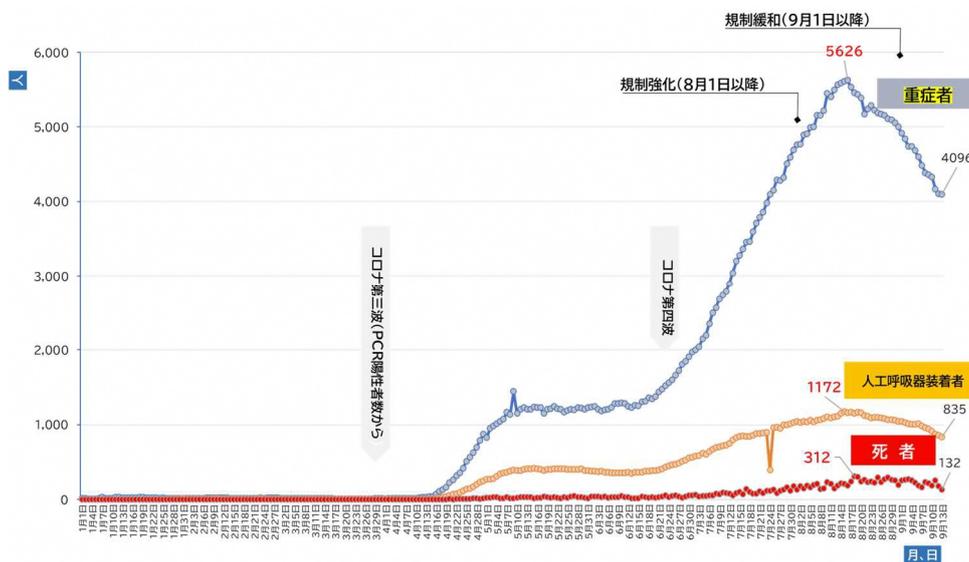


写真 1 バンコク(下町)の早朝

タイは1ヶ月ぶり¹の9月1日から規制措置²を少し緩和した。ワクチン接種もそれなりに進んでいる(図・表 2)。政府は徹底した封じ込めからコロナとの共存へ舵を切った。これにより一定の条件を満たした飲食店、百貨店、美容院等が営業を再開した。

レストランでは当初の規制緩和条件として、食事を提供する側およびそれを利用する側の双方に2回のワクチン接種と証明書提示を義務づけていた。しかし、「厳しすぎる」として批判を浴びたことから、九月末までは「協力要請」となった。

コロナ指標(重症者、人工呼吸器装着者、死亡者等)の推移



図・表 1 コロナ指標(日間)の推移(1月1日~9月13日まで)

出所:タイ国災害管理局(Department of Disease Control)のデータから作成

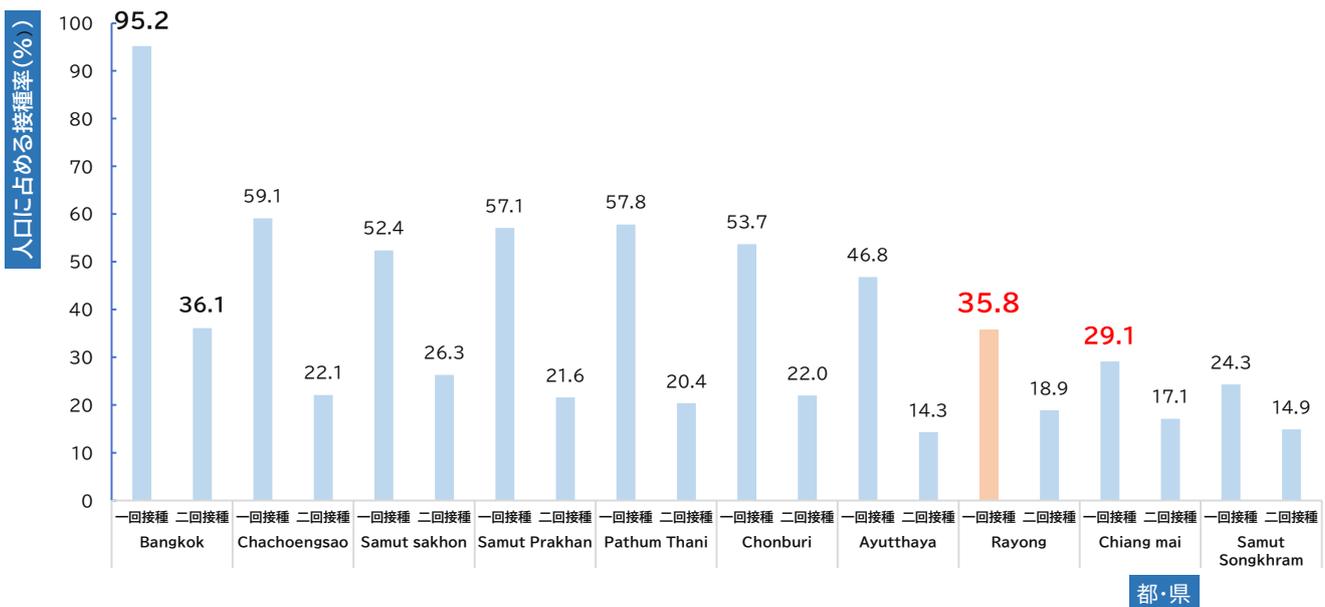
図・表 1 に1月1日から9月13日までのコロナ指標(重症者、人工呼吸器装着者および死者数)の推移を示した。直近9月13日の重症者数は4,096人、人工呼吸器装着者が835人、死者数は132名を記録したが、赤の数字で示したピーク値(8月17-18日)からかなり減少した。ただし、9月1日からスタートした各種規制緩和の影響が気になる。

¹タイ政府は8月1日、国内でのPCR陽性者数の急増やコロナ指標(図・表 1)の深刻化を受け、各種活動および人の移動に係わる規制措置を変更する「非常事態令第9条に基づく決定事項(第30号)」を発出。これにより、最高度厳格管理地域が29都県に拡大し、同地域においては8月31日までの一ヶ月間、午後9時から翌朝午前4時までの外出禁止措置等がとられていた。

²ただし、学校全面再開は今回の規制緩和措置の対象外。現在試行中の"[Sandbox Safety Zone in School](#)(タイ全国で各種条件を満たした68校が自主的に申請し参加中)"での試行を経て、11月頃から全面再開の見込み。

ワクチン接種状況

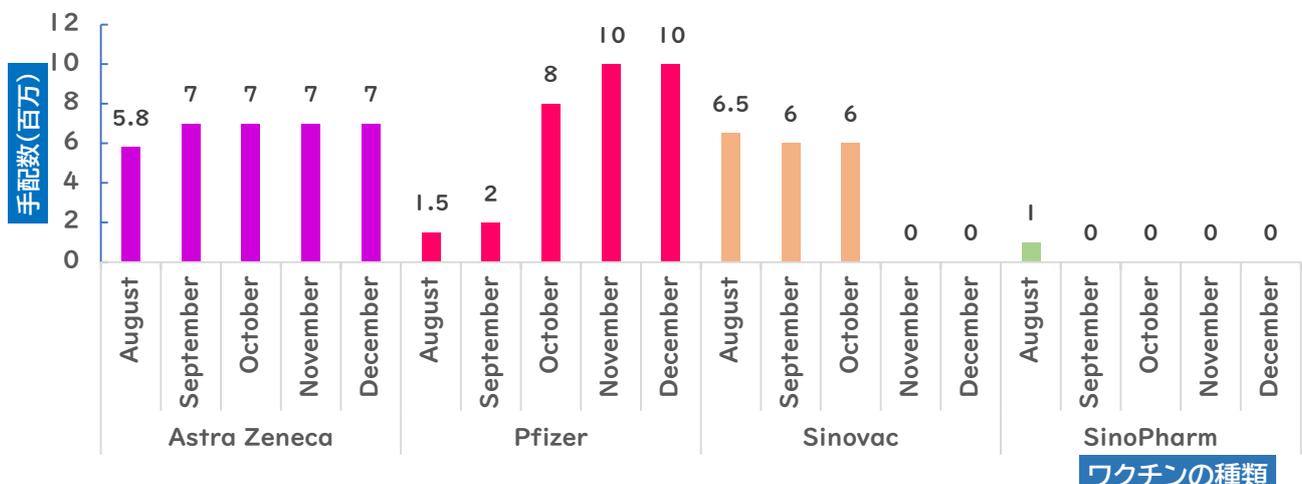
多くの邦人が居住し、日系企業も多数集積するバンコク都および周辺各県におけるワクチン接種率を図・表 2 に示した。バンコクでは一回の接種率が人口比で 95.27% (733 万人)、二回の接種を終えた者の比率が 36.1% (278 万人) となった。ただし、周辺各県では第一回目の接種率が 50% を越えた程度。Ayutthaya (アユタヤ県)、Rayong (ラヨン) 県の第一回目の接種率が 40~30% 台と低く、日本人移住者も多く、観光地の Chiang mai (チェンマイ県) は 29.1% (第 1 回接種) だ。



図・表 2 主要都・県におけるワクチン接種率(9月12日時点)

(出所: 災害管理局のデータから作成)

タイ政府は 12 月末まで国民の 70% にワクチンを二回接種し、集団免疫を獲得するためのワクチン手配計画(図・表 3)を公表した。さらに 2022 年も 2 億回接種分を手配し、変異型への対応を進めるようだ。



図・表 3 ワクチンの種類ごとの手配実績と計画(8月~12月)

(出所: バンコクポストの情報から作成)

プーケット(島)サンドボックスプログラム

7月1日からスタートした「プーケットサンドボックスプログラム」を利用してプーケット(島)を訪れた旅行者(ワクチン接種済み)の総数は、8月末時点の二ヶ月間で26,400人³だった。スイス人女性(56才)の他殺体が8月5日、島内で発見されタイ全土に衝撃が走ったが、二日後には犯人が逮捕された。事件発生後も旅行者の落ち込みが認められなかったことから、このプログラムが概ね成功したと政府は評価している。

もっとも、プーケット(島)の2019年の年間旅行者数は929万人(一日あたり25,452名)だったことからすれば、現地は昔日の面影もない状況だろう。更に、タイの2021年の年間旅行者数は約30万人から120万人程度とも予想され、2019年の実績である3,987万人とは隔世の感がある。



写真 2 プーケット(島)カロンビーチと海の幸

タイ全土の開国(隔離無し受け入れ)は10月中旬が来年1月に延期か？

タイ国観光スポーツ大臣は「2022年1月までにはタイ国全土において海外からの旅行者(ビジネス客、観光客)を隔離期間無しで受け入れる」と述べた⁴。ただし、その頃までに国民の70%がワクチン接種を終えて集団免疫が達成されていること、旅行者はワクチン接種済みであること(等)の条件付きである。タイ全土の開国に向けたスケジュールと適用地域(9月9日時点)は、下記の通り。

- フェーズ1(7月1日～):プーケット県
- フェーズ2(10月1日⁵～):バンコク都⁶、チョンブリー県、チェンマイ県、プラチュアアップキーリカン県、パッチャブリー県
- フェーズ3(10月中旬～):ラヨン県、アユタヤ県を含む21県

ただし、「受け入れ条件の変動」により、適用地域やスケジュールは適宜変更される。最新の情報を関係機関⁷から入手されたい。

³ 旅行者のトップ5:米国(3,647人)、英国(3,437人)、イスラエル(3,141人)、フランス(2,174人)、ドイツ(2,159人)

⁴ 9月6日付、バンコクポスト電子版 Tourism ministry sets January date to reopen, <https://www.bangkokpost.com/business/2176951/tourism-ministry-sets-january-date-to-reopen>

⁵ 10月の第一週から、との情報もある。

⁶ 都民の第二回目の接種が計画通りとは言えず(図・表2)、都下での集団免疫が計画通りに達成できない恐れがあることから、受け入れは11月にずれ込むことになっていたようだ。

⁷ 例えば、Tourism Authority of Thailand、<https://www.tatnews.org/>

経済の一側面

❖ 月間・新卒／求職者数推移(4半期ごと)



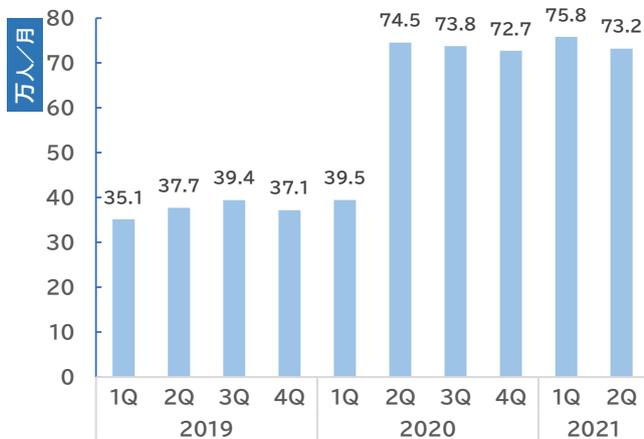
図・表 4 四半期ごとの月間・新卒／求職者数推移
(出所:タイ中央銀行のデータから作成)

タイの大学は教育・研究に重きを置いている。一部の工科大学等を除き、学生向けの積極的な就職支援等は実施していない。また、学生が学業期間中に求職活動をするのは、寡聞にして知らない。学生の多くは4月に入ってから求職活動を開始する。従って、図・表4に示したとおり例年、第2四半期(2Q)は求職者が最も多くなる時期だ。

それにしても第一回目の非常事態宣言が発令された2020年3月26日以降、同年・第2四半期の新卒・求職者は2019年第2四半期の実に2.38倍の49.4万人に激増した。ところが、「コロナ第三波」が襲来した2021年3月下旬以降

の同年第2四半期は、同年第1四半期に比べて4.8万人程度の増加に止まった⁸。

❖ 月間・失業者数推移(四半期ごと)



図・表 5 四半期ごとの月間・失業者数推移
(出所:図・表4と同じ)

2020年3月(1Q)の失業者は39.5万人であったが、同年第2四半期では74.5万人と約1.9倍に増加し同年同期の新卒・求職者数の増加と同じ傾向を示した。しかもそれ以降は高止まりだ(図・表5)。

以下、図・表6において2021年の第1および第2四半期の月間・就労者数の推移を紹介する。製造業(▲23.0万人)、卸・小売(▲17.5万人)、建設(▲10.7万人)、教育(▲2.5万人)、芸術・娯楽・レクリエーション(▲4.2万人)、管理およびサポートサービス活動(▲3.2万人)、金融・保険(▲2.6万)とで軒並み大幅な下落となった。

一方、月間・就業者数が増加したのは、「行政・国防・安全保障分野」で4%(+6.8万人)、公的部門において積極的な採用が行われたのであろう。また、「輸送・保管」で5%増(+6.5万人)、「その他サービス」でも同じく5%増(+4.1万人)、「宿泊・食品サービス」は1%(+3.2万人)の微増を記録した。

⁸ タイの新規大卒者は近年、約27万人(その内、10%が博士前期過程、1%が博士後期課程)であることから、図・表4の新卒／求職者数には短大、職業訓練校なども含まれていると考えられる。

図・表 6 第1四半期および第2四半期における月間・就労者数推移(2020年、2021年)

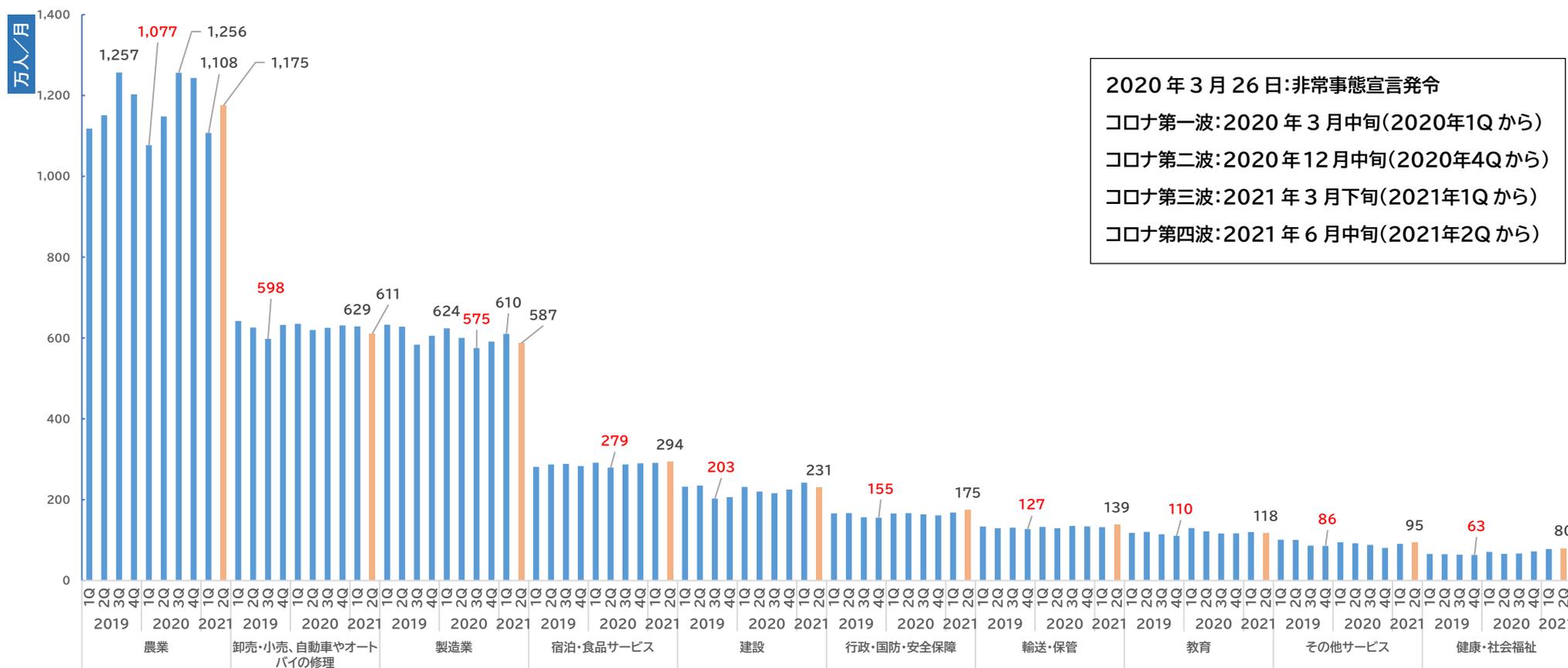
就労区分(失業、新卒求職中を含む)	就労者数 2020年1Q	就労者数 2020年2Q	増減者数(1) 2Q-1Q(人)	増減率(1) (2Q/1Q)	就労者数 2021年1Q	就労者数 2021年2Q	増減者数(2) 2Q-1Q(人)	増減率(2) (2Q/1Q)
失業	394,520	745,180	350,660	1.89	758,090	731,830	(26,260)	0.97
季節労働(求職活動を中止している者) ^注	374,080	346,800	(27,280)	0.93	411,380	224,550	(186,830)	0.55
新卒・求職中	244,620	493,660	249,040	2.02	244,620	293,290	48,670	1.20
農業	10,769,010	11,479,220	710,210	1.07	11,075,060	11,749,020	673,960	1.06
卸売・小売、自動車やオートバイの修理	6,349,830	6,195,680	(154,150)	0.98	6,286,120	6,111,040	(175,080)	0.97
製造業	6,240,750	6,003,380	(237,370)	0.96	6,101,950	5,871,700	(230,250)	0.96
宿泊・食品サービス	2,914,940	2,791,750	(123,190)	0.96	2,910,760	2,942,570	31,810	1.01
建設	2,316,790	2,201,760	(115,030)	0.95	2,421,190	2,313,940	(107,250)	0.96
行政・国防・安全保障	1,656,820	1,667,520	10,700	1.01	1,682,720	1,750,550	67,830	1.04
輸送・保管	1,325,440	1,293,030	(32,410)	0.98	1,319,720	1,385,000	65,280	1.05
教育	1,298,190	1,214,130	(84,060)	0.94	1,200,690	1,176,050	(24,640)	0.98
その他サービス	944,690	919,400	(25,290)	0.97	904,930	946,250	41,320	1.05
健康・社会福祉	708,300	660,390	(47,910)	0.93	778,510	796,740	18,230	1.02
管理およびサポートサービス活動	578,680	510,900	(67,780)	0.88	628,360	596,000	(32,360)	0.95
金融・保険	542,740	506,350	(36,390)	0.93	514,980	489,320	(25,660)	0.95
科学技術活動に関する専門的事業	401,590	379,480	(22,110)	0.94	410,470	411,040	570	1.00
芸術、娯楽、レクリエーション	329,160	275,640	(53,520)	0.84	332,590	290,490	(42,100)	0.87
家内事業	243,350	212,840	(30,510)	0.87	240,230	242,580	2,350	1.01
不動産	237,960	214,950	(23,010)	0.90	241,920	241,370	(550)	1.00
情報・コミュニケーション	230,210	238,470	8,260	1.04	193,430	183,750	(9,680)	0.95
電気、ガス、蒸気、空調供給	126,320	113,780	(12,540)	0.90	124,780	110,420	(14,360)	0.88
水供給・下水道・廃棄物管理・修復	86,340	91,360	5,020	1.06	100,270	101,790	1,520	1.02
不明	65,830	48,600	(17,230)	0.74	61,130	56,300	(4,830)	0.92
鉱業	55,270	61,870	6,600	1.12	45,760	54,340	8,580	1.19
域外組織関連	2,010	200	(1,810)	0.10	3,370	1,560	(1,810)	0.46
15歳以上で労働人口に含まれない者	18,553,000	18,643,560	90,560	1.00	18,252,420	18,286,680	34,260	1.00
総計	56,990,440	57,309,900	319,460	1.01	57,245,450	57,358,170	112,720	1.00

(出所:タイ中央銀行のデータから作成) **注**:季節労働(求職活動を中止している者)は、失業者から除外されている。

❖ トップ10業種・四半期ごとの月間・就業者数推移(2019年～2021年)

図・表 7に、2019年から2021年第2四半期における「トップ10業種・四半期ごとの月間就業者数推移」を示した。この期間における上位5業種の就業者数平均値は、農業が1,129万人、卸・小売業が627万人、製造業で614万人、宿泊・サービスで287万人、建設で232万人であった。

特に農業就業者は、2020年の第3四半期が1,256万人で、同年第1四半期の1,077万人から179万人も増加した。前述した製造業、卸・小売、建設業種等の大幅な雇用減少分を農業が吸収しているのではないか。巷間では物価の高いバンコク都内から郷里の農村部に、「とりあえず帰った。」との話もよく聞く。



2020年3月26日:非常事態宣言発令
 コロナ第一波:2020年3月中旬(2020年1Qから)
 コロナ第二波:2020年12月中旬(2020年4Qから)
 コロナ第三波:2021年3月下旬(2021年1Qから)
 コロナ第四波:2021年6月中旬(2021年2Qから)

図・表 7 トップ10業種・四半期ごとの月間・就業者数推移(2019年～2021年第2四半期)

(出所:タイ中央銀行のデータから作成)

バンコク点描

写真 3 は米国基準の国際医療認証(Joint Commission International)を取得したバンコク都内の私立病院。外国人就労者にとって必須の法定・健康診断のため出向いた。検査フロア担当のメディカルスタッフ(多数)から歓迎のドリップコーヒーサービスを受け、とても気を良くしたところでおもむろに顧客満足度調査タッチパネルの前に引っ張っていかれた。彼女達の視線がタッチパネルに注がれている状況下では、もはや選択の余地は無く、最高ランクの Excellent(併記されていたタイ語でも“最高に良い”を表す「ディーティースト」)を押すだけだった。



写真 3 バンコク都内の私立病院

緑:コロナ禍前に撮影、紫:2021年9月に撮影

以上